はじめての人のための

AI の基礎用語集

まったく知らなくても読めるように、1枚に1語。
元の20語に Claude が11語を足した31語と、付録に「もう一歩の用語」の表。

AI の基礎　PC・ファイル　GitHub・開発　AI の活用・連携

元の20語と付録の用語は、@studio_yebisu さんのポストより。説明は Claude（AI）がまとめました。まちがいがあれば教えてください
（ikasumiworks.com ／ X @ikasumi_works）

この用語集の読み方

1枚に1語。どのページも同じ4つで説明します

ひとことで言うと

その言葉の意味を、専門用語なしで1〜2行に

たとえると

身近な物におきかえたイメージ

使う場面の例

AI を使っていて、その言葉が出てくる場面

気をつけること

まちがえやすい所や、守ること

見出しの横に **＋追加** とあるのは、元の20語に Claude が足した言葉です。

1章

AIの基礎

AIがどう考えて、どこでまちがえるのか

LLM ・ プロンプト ・ コンテキスト ・ トークン ・ ハルシネーション ・ AIエージェント
＋ 生成AI ・ モデル ・ マルチモーダル

AI の基礎　1

LLM

エルエルエム ／ 大規模言語モデル

大量の文章を読んで「次に来そうな言葉」を当てるように学んだ、文章を作る AI のしくみ

たとえると

世界中の本を読みこんで、言葉の続きを当てるのがものすごくうまい人

使う場面の例

Claude・ChatGPT・Gemini は、どれも LLM。チャットで質問すると、LLM が答えを作っている

気をつけること：「知っている」のではなく「それらしく続けている」ので、まちがえることもある（→ ハルシネーション）

AI の基礎　2

プロンプト prompt

AI への頼みごとの文。何をしてほしいか・材料・条件をまとめたもの

たとえると

出前の注文票。何を・いくつ・何時までに、を書くほど思った物が届く

使う場面の例

AI にアプリを作らせるときの依頼文。「何を作るか・何を変えないか・どう確かめるか」まで書くと出来が変わる

気をつけること：あいまいだと、AI が足りない所を勝手に想像でうめる。目的・条件・できあがりの形を書く

コンテキスト

context ／ 文脈

AI がその場で見えている情報ぜんぶ。会話の流れ・読ませたファイル・指示など

たとえると

机の上に広げた資料。机の上に無い物のことは、AI は知らない

使う場面の例

前回の続きを頼むときは、前回のまとめのメモを最初に読ませると話が早い

気をつけること：机の広さ（コンテキストウィンドウ）には上限がある。長い会話は、古い所から要約されたり、細かい所を忘れたりする

AI の基礎　4

トークン token

AI が文章を数える単位。言葉を細かく切った「かけら」のこと

たとえると

タクシーのメーター。AI が読む量と書く量で、メーターが回っていく

使う場面の例

Claude の「使える量」や API の料金は、トークンで数える。大きなファイルを丸ごと読ませると、たくさん使う

気をつけること：同じ中身でも、日本語は英語よりトークンが多くなりやすい。必要な所だけ読ませると節約になる

ハルシネーション

hallucination ／ 幻覚

AI が、本当ではないことを、もっともらしく言ってしまうこと

たとえると

悪気のない知ったかぶり。分からなくても、それらしい答えを作ってしまう

使う場面の例

規約を要約させたら、原文のどこにも無い「禁止事項」が出てきた、はよくある例

気をつけること：数字・規約・人の名前は、原文や出典で確かめる。「出典つきで」と頼むと確かめやすい

AIエージェント AI agent

目標を渡すと、自分で手順を考え、道具を使いながら作業を進める AI

たとえると

「これやっておいて」と頼める助手。調べる・書く・動かすを自分で回す

使う場面の例

「この機能を作って」と頼むと、ファイルを読み、コードを書き、テストまで回す AI（Claude Code・Codex など）

気をつけること：自分で動く分、送信・削除・支払いのような大事な操作は、人が確かめてから

AI の基礎　＋追加

生成AI

せいせいエーアイ ／ generative AI

文章・画像・音声・動画などを、新しく作り出す AI のこと

たとえると

注文に合わせて、その場で書いたり描いたりしてくれる職人

使う場面の例

文章やコードを書く AI、絵を描く AI、曲を作る AI。LLM は生成AI の一種

気をつけること：作った物が、だれかの作品や商標に似すぎていないか。売る物に使うときは特に

AI の基礎　＋追加

モデル model

AI の「頭脳」そのもの。同じ会社でも、大きさや得意なことが違う種類がある

たとえると

車の車種。小回りのきく軽自動車から、力のある大型トラックまである

使う場面の例

Claude なら Opus（考える力が強い）・Sonnet（中くらい）・Haiku（速くて軽い）を選べる

気をつけること：大きいモデルほど賢いが、時間がかかり、料金や使える量の上限にも早く届く。作業の難しさで選び分ける

AI の基礎　＋追加

マルチモーダル multimodal

文字だけでなく、画像や音声なども読める（作れる）こと

たとえると

文字を読むだけの人に、目と耳がついたようなもの

使う場面の例

画面のスクショを貼ると、AI が中身を読んで説明したり、返信の案を作ったりできる

気をつけること：小さい文字や、ぼやけた画像は読みまちがえることがある。大事な数字は文字でも渡す

2章

PC・ファイルの基礎

AI に「どのファイルを」「どう読むか」を伝えるための言葉

ファイルパス ・ 拡張子 ・ Markdown ・ JSON ・ ターミナル（CLI）
＋ ローカルとクラウド

ファイルパス file path

ファイルの住所。どのフォルダの中の、どのファイルかを順に書いたもの

たとえると

「〇〇県 〇〇市 〇〇町 1番地」のような住所。大きい所から順に絞っていく

使う場面の例

C:\Users\名前\Documents\memo.md のように書く。Windows は \ で、Mac や Web は / で区切る

気をつけること：1文字ちがうと見つからない。名前にスペースがあるパスは " " でかこむ

PC・ファイルの基礎　8

拡張子 かくちょうし

ファイル名の最後の「.」のあとの部分。中身の種類を表す

たとえると

本の背の色分けラベル。見ただけで「小説」「図鑑」と分かる

使う場面の例

.md（メモ）・.json（データ）・.html（Web ページ）・.js（プログラム）・.png（画像）・.exe（アプリ）

気をつけること：名前の拡張子を書きかえても、中身は変わらない。Windows は最初は隠れているので、表示する設定にしておくと便利

Markdown マークダウン ／ .md

記号を少し足すだけで、見出しや箇条書きを書ける文章の書き方

たとえると

メモ帳の文字だけで使えるワープロ。# を付けると見出し、- を付けると箇条書き

使う場面の例

AI に渡すメモや手順書は Markdown がおすすめ。AI がいちばん読み書きしやすい形

気をつけること：アプリによって表示がちがう。メモ帳で開くと記号がそのまま見える（こわれてはいない）

JSON ジェイソン／.json

データを「項目名：値」の決まった形で書く書き方。プログラムが読みやすい

たとえると

項目名が印刷された申込書。「名前：」「値段：」の欄に書きこむ

使う場面の例

アプリの設定ファイル（Chrome 拡張の manifest.json など）や、サービス同士のデータのやりとり

気をつけること：カンマやかっこが1つ抜けるだけで、全部読めなくなる。手で直したら AI に形を確かめてもらう

ターミナル（CLI）

コマンドライン

ボタンではなく、文字のコマンド（命令）を打って PC を動かす画面

たとえると

メニューの写真を指さすのではなく、言葉で注文するカウンター

使う場面の例

Claude Code や Codex はターミナルで動く。Windows の PowerShell もターミナルの一種

気をつけること：消すコマンドは、ごみ箱を通らずに消えることがある。分からないコマンドは実行前に聞く

PC・ファイルの基礎　＋追加

ローカルとクラウド local ／ cloud

ローカルは自分の PC の中。クラウドはネットの向こうのコンピューター

たとえると

家の本棚と、借りている貸し倉庫。倉庫はどこからでも出し入れできる

使う場面の例

Claude Code は自分の PC（ローカル）で動くが、話し相手の AI のモデルはクラウドで動いている。ブラウザで使うチャットの AI もクラウド

気をつけること：「PC の中だけで処理」はローカルのこと。クラウドに上げた物は、相手のサービスの決まりで扱われる

3章

GitHub・開発の基礎

作った物を記録して、置いて、公開するまでの言葉

GitHub ・ リポジトリ ・ README ・ OSS ・ Git
＋ コミット ・ ブランチ ・ プッシュとプル ・ ライセンス ・ パッケージ ・ デプロイ

GitHub ギットハブ

Git で記録したプロジェクトを、ネットに置いて保管・共有できるサービス

たとえると

作品の貸し金庫。自分だけの棚（非公開）にも、みんなが見られる図書館（公開）にもできる

使う場面の例

作ったアプリのコードを、非公開のまま保管しておける。公開すれば OSS にもできる

気をつけること：Git は「記録する道具」、GitHub は「置き場所」。公開にした物はだれでも見られる

リポジトリ

repository ／ 略して「リポ」

プロジェクトひとつ分の入れ物。ファイルと、その変更の歴史がまとめて入っている

たとえると

作品ごとのファイルボックス。中身と、書き直しの記録がいっしょに入っている

使う場面の例

アプリやサイトごとに1つずつ作るのが基本。名前は自由に付けられる

気をつけること：GitHub から自分の PC に写すことを「クローン」と言う。パスワードや鍵のファイルは入れない

README

リードミー ／ 「最初に読んで」

リポジトリの最初に読む説明書。何をする物か・使い方・決まりを書く

たとえると

家電の取扱説明書の1ページ目。「まずここを読んでください」

使う場面の例

README.md（Markdown）で書く。公開の手順など、作業の決まりも書いておける

気をつけること：GitHub はリポジトリを開くと README を最初に表示する。公開するなら、ここで中身が伝わるように

OSS　オープンソースソフトウェア

設計図（ソースコード）が公開されていて、決まりの範囲でだれでも使える・直せるソフト

たとえると

レシピを公開している料理。まねして作っても、自分流に変えてもいい

使う場面の例

配信ソフトの OBS、動画変換の FFmpeg、コードを書くアプリの VS Code など、身近な道具にも多い

気をつけること：無料でも条件がある。売る物に組みこむときは、ライセンスを必ず確かめる（→ ライセンス）

Git ギット

ファイルの変更の歴史を記録する道具。いつでも前の状態に戻せる

たとえると

ゲームのセーブポイント。失敗しても、前のセーブからやり直せる

使う場面の例

AI にコードを書かせると、作業のたびに記録が残る。おかしくなったら前の記録に戻せる

気をつけること：Git は自分の PC の中の道具。ネットに置くには GitHub などに送る（→ プッシュとプル）

GitHub・開発の基礎　＋追加

コミット commit

Git で、変更をひとまとまりにして記録すること。1回のセーブ

たとえると

日記に「今日はここを直した」と一行書いて、ページを閉じること

使う場面の例

「a1b2c3d」のような番号がつく。何を変えたかの一言（コミットメッセージ）もいっしょに残る

気をつけること：コミットしただけでは、まだ自分の PC の中。GitHub には届いていない

GitHub・開発の基礎　＋追加

ブランチ　branch ／ 枝

本線をこわさずに、別の道で試すための枝分かれ。うまくいったら本線に合流させる

たとえると

清書のノートとは別の、下書き用ノート。良くできたら清書に写す

使う場面の例

新しい機能は別のブランチで作り、確かめてから本線（main）に入れる

気をつけること：本線に合流させることを「マージ」と言う。どのブランチで作業しているか、いつも確かめる

GitHub・開発の基礎　＋追加

プッシュとプル push ／ pull

プッシュは自分の PC の記録を GitHub へ送ること。プルは GitHub の新しい記録を持ってくること

たとえると

プッシュは郵便を出す、プルは郵便受けから取ってくる

使う場面の例

AI が「push していません」と言ったら、まだ GitHub に送っていない、という意味

気をつけること：プッシュしないと PC がこわれたときに消える。公開のリポジトリにプッシュした物は、すぐ人に見られる

GitHub・開発の基礎　＋追加

ライセンス

license ／ 使ってよい条件

作った物を、だれが・どう使ってよいかの決まり

たとえると

貸し出しの約束ごと。「自由に使っていい、ただし名前は残して」など

使う場面の例

MIT（名前を残せばほぼ自由）、GPL（配るときは同じ条件で公開）など、種類がたくさんある

気をつけること：AGPL のように「使ったら自分のコードも公開」が条件の物もある。売る物に入れる前に必ず確かめる

GitHub・開発の基礎　＋追加

パッケージ

package ／ ライブラリ

だれかが作って公開している、便利なプログラムの部品

たとえると

料理の市販の合わせ調味料。一から作らなくても、すぐ同じ味が出せる

使う場面の例

JavaScript は npm、Python は pip という道具で取ってくる。AI が必要な物を入れてくれることも多い

気をつけること：名前がよく似た、悪いプログラム入りの偽物もある。知らない物を入れるときは、作者と利用者数を確かめる

GitHub・開発の基礎　＋追加

デプロイ

deploy ／ 本番に出す

作った物を本番の場所に置いて、みんなが使える状態にすること

たとえると

試作品を厨房で作り終えて、お店のメニューに並べること

使う場面の例

作った Web サイトを Cloudflare や Vercel に上げて、URL で開けるようにする所

気をつけること：出したあとに古い版が見えることがある（ブラウザが覚えている）。出したら本番の画面で版の番号を確かめる

4章

AI の活用・連携

AI をほかのサービスや道具につなぐための言葉と、そのときの安全

API ・ APIキー ・ MCP ・ Skills
＋ プロンプトインジェクション

API エーピーアイ

ソフト同士がやりとりするための、決まった窓口と頼み方

たとえると

お店の注文カウンター。厨房には入れないが、決まった注文票で頼めば料理が出てくる

使う場面の例

天気・地図・YouTube などのデータを、自分のアプリから取ってくるとき。AI にも API がある

気をつけること：多くは使える回数や料金に上限がある。使う前に規約と無料の範囲を見る

APIキー

API key

API を使うための合言葉。だれが使ったか、料金をだれに付けるかがこれで決まる

たとえると

クレジットカード付きの会員証。拾った人が使うと、請求は持ち主に来る

使う場面の例

Google・OpenAI・Anthropic などの開発者の画面で発行する。設定に入れて、アプリだけが読む

気をつけること：人に見せない・チャットに貼らない・GitHub に上げない。もれたら、すぐ作り直して古い物を消す

MCP

エムシーピー ／ Model Context Protocol

AI がいろいろな道具やサービスにつながるための、共通の決まり

たとえると

USB の差しこみ口。形が合えば、どのメーカーの機械でもつながる

使う場面の例

AI を Gmail・カレンダー・PC のファイルにつなぐと、メールの確認や予定の登録まで頼める

気をつけること：つないだ先のことを AI ができるようになる。知らない作者の物はつながない、権限は必要な分だけ

Skills スキル ／ Agent Skills

AI に「この作業はこの手順で」と教える手順書のセット。必要なときだけ読みこむ

たとえると

お店の作業マニュアル集。新人でも、その作業のページを開けば同じやり方でできる

使う場面の例

「作業の始め方」「自分の文章のくせ」などを書いておくと、毎回同じやり方でやってくれる

気をつけること：中身はふつうの文章（SKILL.md）。古くなったら書き直す。人からもらったスキルは、中を読んでから使う

AI の活用・連携　＋追加

プロンプトインジェクション

Web ページやファイルの中に、AI をだますための指示がこっそり書かれていること

たとえると

受け取った書類のすみに「この書類を読んだ人は〇〇に送金すること」と書いてある

使う場面の例

AI にメールやブラウザを任せると、中に書かれた指示に従ってしまう危険がある。よくできた AI ほど、人に確かめてくる

気をつけること：AI にメール・ブラウザ・ファイルを任せるほど危なくなる。送信・支払い・削除は必ず自分で確かめる

付録

もう一歩の用語と道具

基礎の31語を読んだあとに。1枚に1語ではなく、ひとことの表でまとめました

道具の名前は、まず「何をする道具か」だけ分かれば十分。本編と重なる言葉は、表ではひとことだけにしています

付録　AI・エージェント（1）

AI のしくみと、まちがえ方

用語	ひとことで
RAG	質問のたびに資料を探し、それを読ませてから答えさせるしくみ
マルチモーダル	文字だけでなく、画像や音声も扱えること
Tool Calling / Function Calling	AI が自分で「この道具を使う」と決めて呼び出すこと
推論モデル	答える前に、手順をじっくり考えてから答える AI
Deep Research	AI がたくさんの Web ページを調べて、報告書にまとめる機能
プロンプトインジェクション	資料の中に隠した指示で、AI をだますこと

AI に仕事を任せる形

用語	ひとことで
Subagents	親の AI が、別の AI に仕事を分けて並行で進めさせる形
Agent Teams	複数の AI がチームを組み、役割を分けて同時に動く形
Agent Skills	AI 用の手順書のセット
AGENTS.md	コードを書く AI に、そのリポジトリの決まりを伝えるファイル
Computer Use	AI が画面を見て、マウスとキーボードで PC を操作すること
Browser Use	AI がブラウザを操作して、ページを読んだり押したりすること

GitHub でよく見る操作

用語	ひとことで
Clone（クローン）	GitHub のリポジトリを、自分の PC にまるごと写すこと
Commit（コミット）	変更をひとまとまりで記録すること
Push（プッシュ）	PC の記録を GitHub へ送ること
Branch（ブランチ）	本線をこわさずに試すための枝分かれ
Pull Request（プルリク）	「この変更を本線に入れて」と見てもらうための申し出
Issue（イシュー）	バグや要望を1件ずつ書いておく、プロジェクトの連絡帳

作るときに出てくる言葉

用語	ひとことで
Worktree（ワークツリー）	1つのリポジトリで、ブランチごとに別のフォルダを同時に開く機能
ライセンス	作った物を使ってよい条件の決まり
依存関係	使っている部品と、その部品がさらに使っている部品のつながり
デバッグ	プログラムのまちがい（バグ）を探して直すこと
環境変数	鍵や設定を、プログラムの外に置いて渡すしくみ

付録　AI・コーディングツール（1）

話しかけて使う AI と、その置き場

名前	ひとことで
ChatGPT	OpenAI のチャット AI。画像も作れる
Claude	Anthropic の AI。この用語集も Claude が作った
Gemini	Google の AI。Google のサービスとつながりやすい
Grok	X と同じグループの会社 xAI の AI
Kimi	中国の Moonshot AI の AI
DeepSeek	中国の DeepSeek の AI。中身が公開されたモデルもある
Qwen	中国のアリババの AI。公開されたモデルが多い
Google AI Studio	Gemini を試したり、API キーを作ったりする Google の場所
Hugging Face	公開された AI モデルやデータが集まる、AI 版の GitHub

付録　AI・コーディングツール（2）

コードを書く AI の道具

名前	ひとことで
Claude Code	Anthropic の、コードを書いて動かす AI。ターミナルで動く
Codex	OpenAI の、コードを書いて動かす AI。Claude Code の仲間
Cursor	AI が組みこまれた、コードを書くアプリ（エディタ）
Antigravity	Google の、AI エージェントが中心のコードを書くアプリ
OpenCode	ターミナルで動く、オープンソースのコードを書く AI
Gemini CLI	Google の、ターミナルで動く Gemini
GitHub Copilot	GitHub の、コードを書く手伝いをする AI
Cline	VS Code の中で動く、コードを書く AI の拡張機能
Ollama	公開された AI モデルを、自分の PC で動かす道具

付録　画像・動画・音楽（1）

画像と音楽を作る AI

名前	ひとことで
GPT Image	OpenAI の画像を作る AI（ChatGPT の画像）
FLUX	Black Forest Labs の画像を作る AI。公開版もある
Nano Banana	Google の画像を作る・直す AI の呼び名（Gemini の画像）
Midjourney	雰囲気のある絵が得意な、画像を作る有料サービス
ComfyUI	画像を作る手順を、部品を線でつないで組める道具
Suno	歌詞や雰囲気を書くと、歌入りの曲を作る AI
Udio	Suno と同じく、曲を作る AI

動画を作る AI と、編集の道具

名前	ひとことで
Veo	Google の、動画を作る AI
Sora	OpenAI の、動画を作る AI
Kling	中国の快手（Kuaishou）の、動画を作る AI
Runway	動画を作る・直す AI がそろったサービス
Wan	アリババの、公開された動画を作る AI
Blender	無料の 3D を作るアプリ（AI ではない）
DaVinci Resolve	無料版もある、動画の編集アプリ（AI ではない）
Remotion	プログラム（JavaScript）で動画を組み立てる道具
FFmpeg	動画や音声の変換・切り出しをする、ターミナルの道具

作る・置く・動かすための道具

名前	ひとことで
VS Code	無料のコードを書くアプリ。拡張で機能を足せる
GitHub Desktop	Git と GitHub を、ボタンで操作できるアプリ
Figma	画面やアイコンのデザインを作る道具
Framer	デザインするように Web サイトを作って公開できる道具
Vercel	作った Web サイトを置いて公開する場所
Cloudflare	Web サイトを置く・速く安全に届けるサービス
Supabase	データベースやログインの仕組みを借りられるサービス
Firebase	Google の、データベースやログインを借りられるサービス
Docker	アプリを、動く環境ごと箱に入れて持ち運ぶ道具
Google Colab	ブラウザで Python を動かせる、Google の場所

プログラムを書く言葉

用語	ひとことで
HTML	Web ページの中身と骨組みを書く言葉
CSS	Web ページの見た目（色・大きさ・並び）を決める言葉
JavaScript	Web ページや拡張機能を動かすプログラムの言葉
TypeScript	JavaScript に「型」の決まりを足して、まちがいを減らす言葉
Python	読みやすく、AI やデータの処理でよく使う言葉
API	ソフト同士がやりとりする窓口

付録　Web・自動化の用語（2）

つなぐ・しまう・自動で回す

用語	ひとことで
Webhook	何か起きたら、相手から自動で知らせが届くしくみ
OAuth	パスワードを渡さずに「Google でログイン」などを許すしくみ
データベース	たくさんのデータを整理してしまっておく倉庫
SQL	データベースに「この条件の物を出して」と頼む言葉
デプロイ	作った物を本番に出すこと
CI/CD	変更のたびに、テストと公開を自動で回すしくみ
ローカル / クラウド	自分の PC と、ネットの向こうのコンピューター

付録2

あとから足した言葉

2026年11月。AI を使う中や、ニュースで出てきた言葉

作らせるとき　AIリーダブル ・ プリビズ ・ ブロックアウト

安全のニュース　脆弱性 ・ ゼロデイ脆弱性 ・ CVE ・ CVSS ・ パッチ

Claude のモデル　Haiku ・ Sonnet ・ Opus ・ Mythos ・ Fable ・ モデルの切り替え

AIリーダブル AI-readable

AI が読んで、正しく分かるように書いた文章。それだけで話が通じ、事実と決めたことが分けてある

たとえると

引き継ぎのメモ。前の担当がいなくても、読めば続きができる

使う場面の例

AI に渡す依頼書や仕様書。1通で話がまとまったメールのような文は、AI に読ませやすい

気をつけること：「前に話したあれ」は AI には分からない。指す物の名前や場所をそのまま書く

プリビズ

previz ／ プリビジュアライゼーション

本番の前に作る、ざっくりした下書きの映像。カメラの位置や構図、動きを決める

たとえると

家を建てる前の模型。家具は無くても、部屋の広さや日当たりが分かる

使う場面の例

映画や CM の撮影の前。AI で動画を作るときの、構図の下書きにも使われる

気をつけること：下書きなので見た目は粗い。そのまま AI の参考に渡すと、粗さまでまねされることがある

ブロックアウト blockout

プリビズやゲームの場面づくりで、建物や地面を箱や板で置いただけの仮の形

たとえると

引っ越しの前に、床にテープを貼って家具の置き場所を決めておくこと

使う場面の例

ゲームの場面づくりや、プリビズの最初の段階

気をつけること：色や形は仮のもの。人に見せるときは「仮の形です」と先に伝える

脆弱性

ぜいじゃくせい ／ vulnerability

ソフトの弱点。悪用されると、勝手にプログラムを動かされたり、中を見られたりする

たとえると

家の、鍵の壊れた窓。気づいた泥棒はそこから入れる

使う場面の例

「Chrome の重大な脆弱性を修正」のようなニュース

気をつけること：見つかっても、直す更新を入れるまでは弱点が残ったまま

ゼロデイ脆弱性 zero-day

作った会社が直す前に見つかり、悪用されることもある弱点

たとえると

壊れた窓に、家の人より先に泥棒が気づいた状態

使う場面の例

「ゼロデイ、悪用を確認」という見出しのニュース

気をつけること：直す更新が出るまでは、ウイルス対策ソフトでも防げないことがある。更新が出たら後回しにしない

CVE シーブイイー

見つかった弱点に付ける、世界共通の番号

たとえると

車のリコールの届出番号。番号で、どの不具合の話かが分かる

使う場面の例

「CVE-2026-108186」のように、ニュースや更新のお知らせに書かれる

気をつけること：番号だけでは、自分に関係するかは分からない。どの製品のどの版の話かを見る

CVSS シーブイエスエス

弱点の深刻さを 0〜10 の点数で表したもの。9.0 以上は「Critical（緊急）」

たとえると

台風の強さの階級。数字が大きいほど、急いで備える

使う場面の例

「CVSS 9.6」のように、ニュースやメーカーのお知らせに書かれる

気をつけること：点数が低くても、もう悪用されている（ゼロデイの）ときは急いで直す

パッチ

アップデート／更新

ソフトの弱点やまちがいを直すための更新。「パッチを当てる」のように言う

たとえると

服の破れをふさぐ当て布

使う場面の例

Chrome の「再起動」ボタン、Windows Update、アプリの更新

気をつけること：入れただけでは反映されないものがある。Chrome は、入れたあとに Chrome を再起動する

Haiku ハイク

Claude のモデルのうち、速くて軽いもの

たとえると

小回りのきく軽自動車

使う場面の例

短い文の言いかえや、たくさんの文を素早く分ける作業

気をつけること：込み入った判断や長い作業は、上のモデルのほうが向いている

Sonnet ソネット

Claude のモデルのうち、中くらいのもの。速さと考える力のつり合いがいい

たとえると

普通車。毎日の買い物から遠出まで、たいていはこれで足りる

使う場面の例

ふだんの文章の下書きや、調べもの

気をつけること：判断に迷う話や長く続く作業では、上のモデルに切り替えたほうがいいことがある

Opus オーパス

Claude のモデルのうち、考える力が強いもの

たとえると

力のある大型トラック。重い荷物も運べるが、燃料をたくさん使う

使う場面の例

難しい判断や、長く続く作業

気をつけること：使える量の減りが早い。簡単な作業まで Opus にしない

Mythos

Opus より上の段

Claude のモデルで、Opus より上の段の名前

たとえると

一般の店にはまだ並ばず、限られた所だけで使われている新型

使う場面の例

最初の Claude Mythos Preview は、限られた組織だけが使っている

気をつけること：名前や使える範囲は変わることがある。最新は Anthropic の公式ページで確かめる

Fable フェイブル

Mythos と同じ中身に、生物とサイバーの安全対策を足した版のモデル

たとえると

同じエンジンの車に、安全装置を足して一般向けにしたもの

使う場面の例

Claude のアプリや Claude Code で、モデルとして選ぶ

気をつけること：英語の発音では「フェイブル」に近い。ローマ字読みの「ファブル」ではない

モデルの切り替え

会話の途中で、使う AI のモデルを変えること

たとえると

坂道の前で、車のギアを変える

使う場面の例

Claude Code の /model や、チャットのモデルの選択

気をつけること：上のモデルほど、使える量の減りが早い。上げっぱなしにしない

おわりに

全部を一度に覚えなくて大丈夫

1. 使いながら覚える

トークン・MCP・Skills・コミットは、AI で何か作り始めるとすぐ出てくる。出てきたときに、このページを見返せば十分

2. その場で聞く

分からない言葉が出たら「今やっている作業の例で教えて」と AI に聞く。例があると一回で覚えやすい

3. 安全の3つだけは先に

ハルシネーション・APIキー・プロンプトインジェクション。ここは知らないと損をする